

**東日本大震災から1年 其の後の防災・災害対策意識
アンケート調査 集計結果**



2012年2月

株式会社リビングくらしHOW研究所

調査目的

東日本大震災から1年後の主婦の防災・災害対策への意識の変化を、今後の参考情報として活用する。

調査期間

2012年1月12日(木)～1月15日(日)実施

調査方法

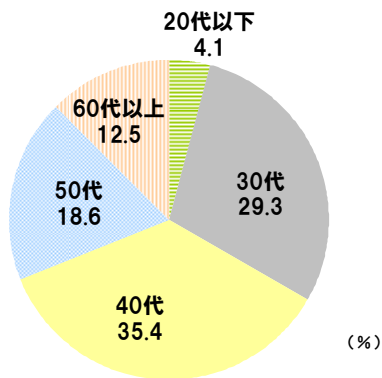
リビング新聞のウェブサイト「えるこみ」ユーザーへのWebアンケート調査

調査対象者

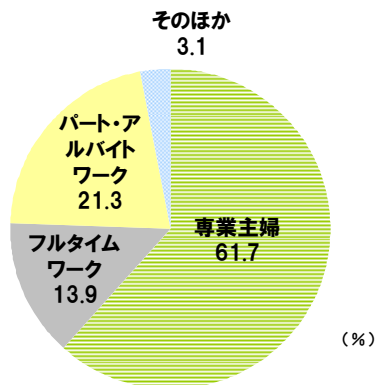
全国の既婚女性
集計数:944人

※ 当レポートの数値は、小数点以下2位を四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

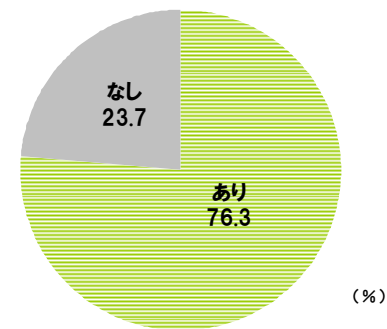
1 年代 (n=944)
*平均年齢 45.2歳



2 職業 (n=943)



3 子供の有無 (n=944)



4 居住エリア (n=944)

	n	%
北海道	27	2.9
青森県	3	0.3
岩手県	4	0.4
宮城県	34	3.6
秋田県	2	0.2
山形県	1	0.1
福島県	10	1.1
茨城県	4	0.4
栃木県	12	1.3
群馬県	4	0.4
埼玉県	52	5.5
千葉県	118	12.5
東京都	166	17.6
神奈川県	134	14.2

	n	%
新潟県	4	0.4
富山県	1	0.1
石川県	7	0.7
福井県	4	0.4
山梨県	1	0.1
長野県	2	0.2
岐阜県	2	0.2
静岡県	19	2.0
愛知県	42	4.4
三重県	2	0.2
滋賀県	15	1.6
京都府	28	3.0
大阪府	67	7.1
兵庫県	74	7.8

	n	%
奈良県	1	0.1
和歌山県	8	0.8
鳥取県	2	0.2
島根県	1	0.1
岡山県	9	1.0
広島県	9	1.0
香川県	8	0.8
愛媛県	16	1.7
福岡県	28	3.0
熊本県	15	1.6
大分県	1	0.1
宮崎県	2	0.2
鹿児島県	4	0.4
沖縄県	1	0.1

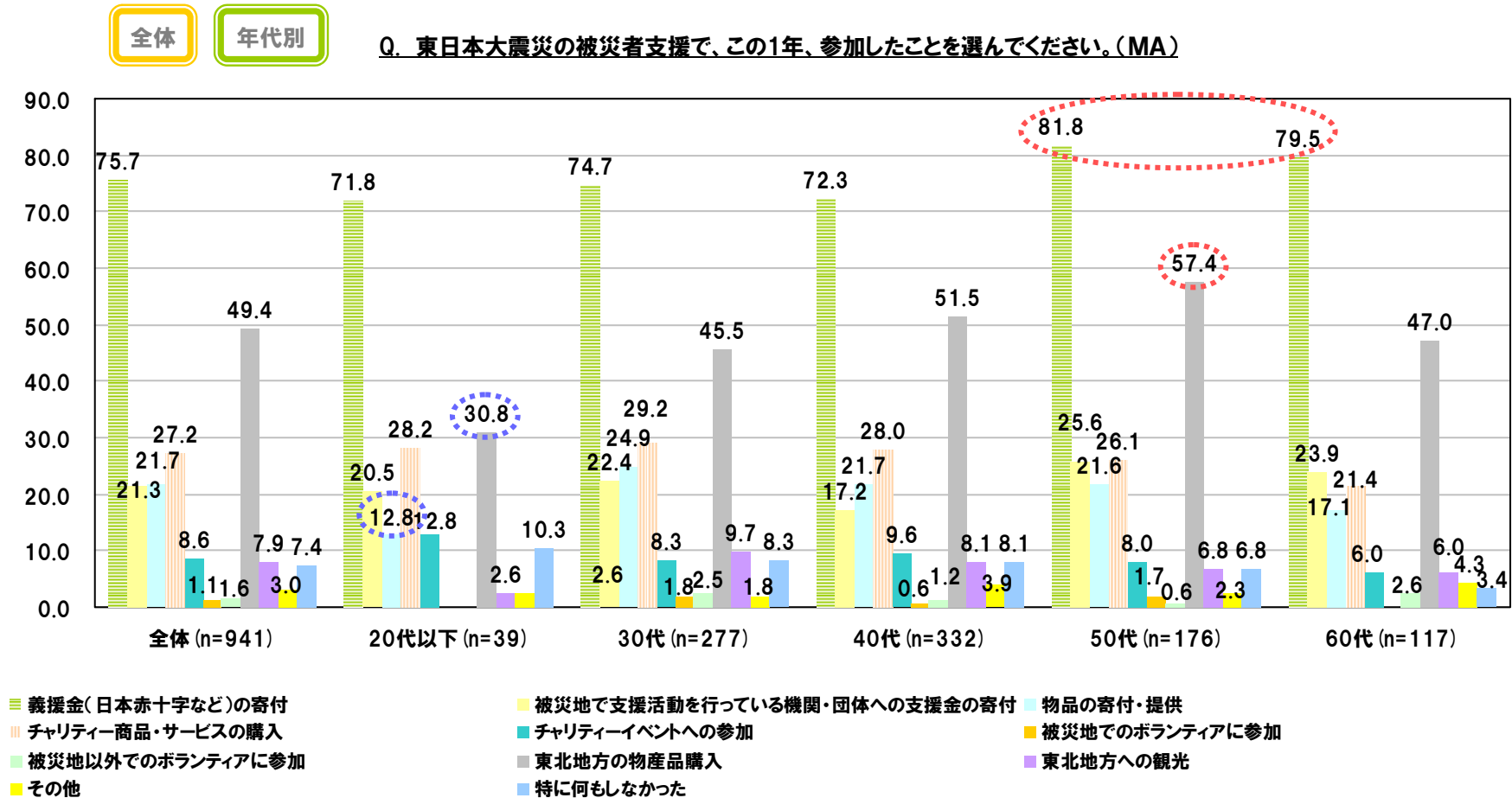
東日本大震災の被災者支援で、この1年、参加したこと

参加した被災者支援の1位は「義援金の寄付」75.7%。

■全国の既婚女性に、「東日本大震災の被災者支援で、この1年参加したこと」について聞いた。

■全体では「義援金の寄付」が最も多く75.7%。50代・60代では8割前後も参加している。

■N値が少ないので参考値だが、20代以下は「物品の寄付・提供」「東北地方の物産品購入」が少なめ。



義援金寄付、支援金寄付の合計金額

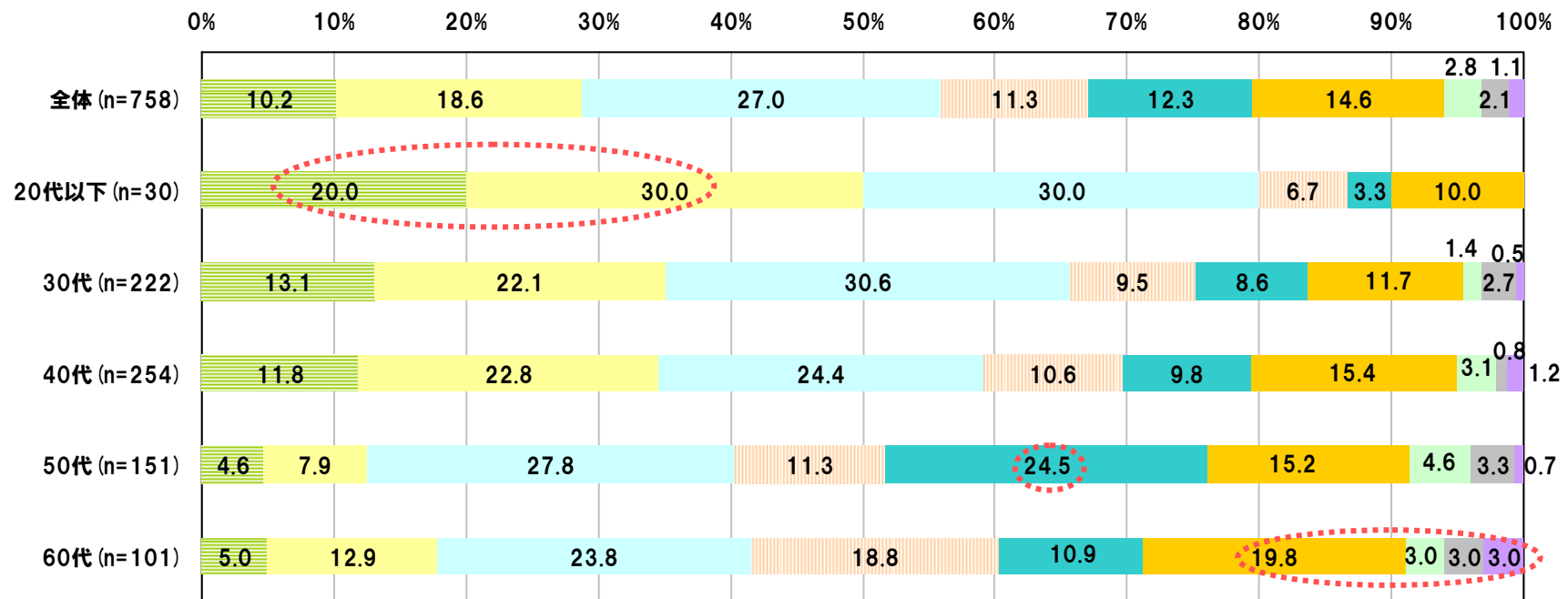
寄付した金額は年代によってバラバラだが、最も多いのは「1000円～3000円未満」。

- 義援金寄付の金額は「1000円～3000円未満」が最多で27.0%、次いで「500円～1000円未満」が18.6%。
- 年代があがるにつれて寄付金額もあがり、50代は「5000円～1万円未満」が24.5%と多い。60代は1万円以上が3割近くもいる。
- N値が少ないので参考値だが、20代以下は「1000円未満」が半数を占めている。

全体

年代別

Q. 義援金寄付、支援金寄付をした方、おおよその合計金額を教えてください。(SA)



500円未満
 500円～1000円未満
 1000円～3000円未満
 3000円～5000円未満
 5000円～1万円未満
 1万円～3万円未満

3万円～5万円未満
 5万円～10万円未満
 10万円以上

東日本大震災の被災者支援で、これから先、参加しようと思うこと

6割超がこれからの参加意欲を示した被災者支援は「東北地方の物産品購入」。

■東日本大震災の被災者支援でこれから先参加しようと思うことは「東北地方の物産品購入」が一番多くて6割超。

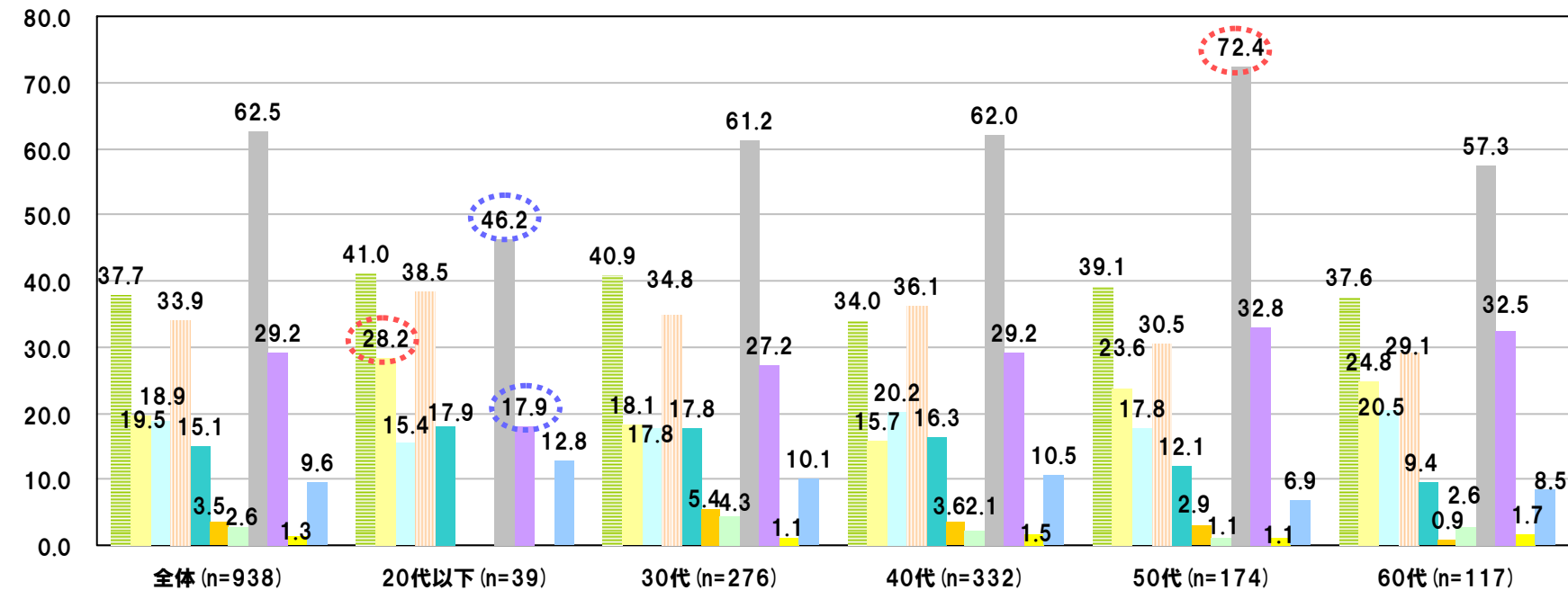
■特に50代は「東北地方の物産品購入」を挙げる人が多く、72.4%。50代・60代は他の世代に比べて東北地方への観光にも積極的。

■N値が少ないので参考値だが、20代以下は「被災地で支援活動を行っている機関・団体への支援金の寄付」が高く、「東北地方への観光」「東北地方の物産品購入」が低い。

全体

年代別

Q. 東日本大震災の被災者支援で、これから先、参加しようと思うことを選んでください。(MA)



■ 義援金(日本赤十字など)の寄付
 ■ チャリティー商品・サービスの購入
 ■ 被災地以外でのボランティアに参加
 ■ その他

■ 被災地で支援活動を行っている機関・団体への支援金の寄付
 ■ 物品の寄付・提供
 ■ チャリティーイベントへの参加
 ■ 被災地でのボランティアに参加
 ■ 東北地方の物産品購入
 ■ 東北地方への観光
 ■ 特にない

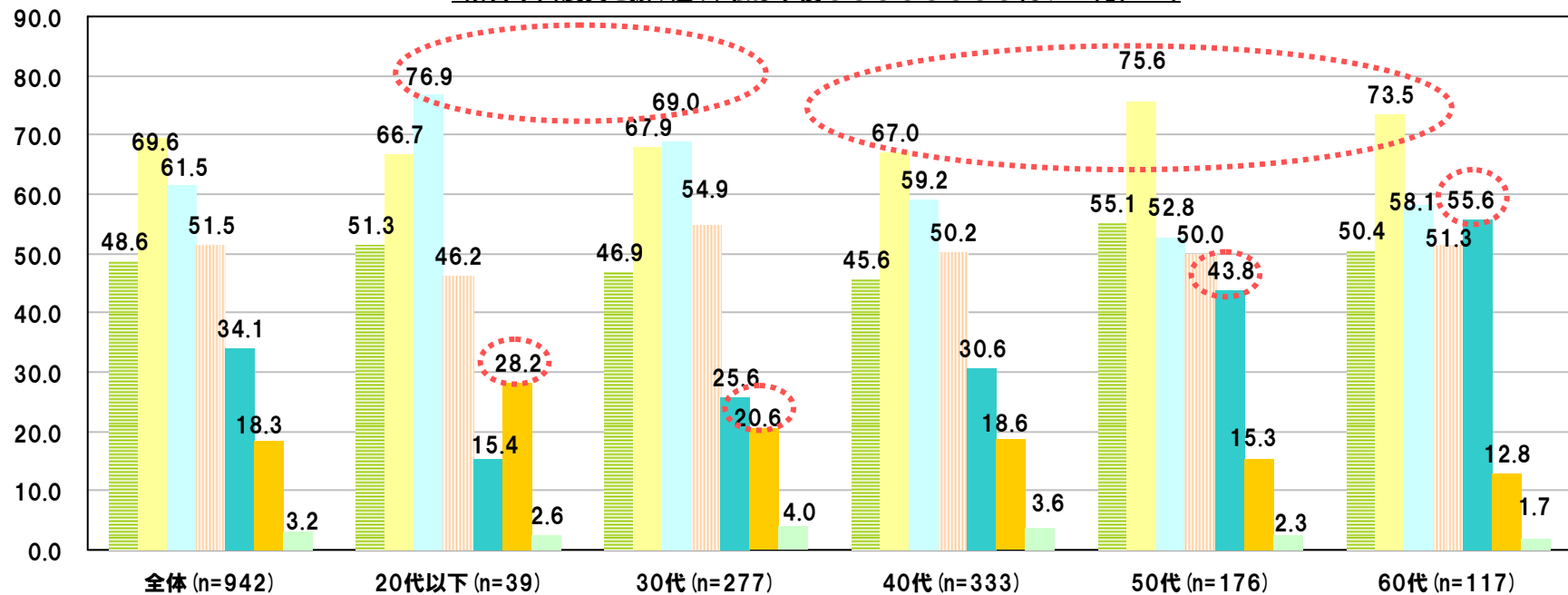
今後、30代以下は「家族の絆」、40代以上は「電気やエネルギー」を重要視。

■東日本大震災を振り返って、今後どうしたいか、現在の気持ちを聞いたところ、上位3つは「電気やエネルギーを大切にしたい」約7割、「家族の絆を大切にしたい」約6割、「防災を強化したい」約5割。

■30代～60代は「電気やエネルギーを大切にしたい」が一番多く、20代以下～30代は「家族の絆を大切にしたい」が一番多い。年代があがるにつれ「いつ何が起こるか分からないので、シンプルな生活をしたい」の割合が高くなり、逆に若い年代ほど「いつ何が起こるか分からないので、やりたかったことをやりたい」が高くなる。

全体 年代別

Q. 東日本大震災からそろそろ1年がたとうとしている今、下の〇〇〇〇に合う気持ちを選んでください。
『東日本大震災を振り返り、私は今後〇〇〇〇〇〇〇〇(したい)』(MA)



- 東北地方をはじめ被災地を支援していきたい
- 電気やエネルギーを大切にしたい
- 家族の絆を大切にしたい
- 防災を強化したい
- いつ何が起こるか分からないので、シンプルな生活をしたい
- いつ何が起こるか分からないので、やりたかったことをやりたい
- その他

＜いつ何が起こるか分からないので、やりたかったことをやりたい＞と答えた人＞
やりたいことを具体的に教えてください。（フリーアンサーから抜粋）

【旅行】

- 旅行が趣味なので世界各国いろいろな所を旅行したい！（35歳/パートアルバイト・埼玉県）
- いつも計画倒れになる旅行に積極的に行く。（31歳/専業主婦・鳥取県）
- 海外旅行にたくさん行きたい。（61歳/専業主婦・広島県）

【自分磨き】

- 趣味のアロマセラピーの資格取得。（37歳/専業主婦・千葉県）
- 自分磨きですね。料理教室に通いたいです。（25歳/フルタイム・北海道）
- 家族のためだけでなく、自分のために習い事をしたり、友達に積極的に会ったりしたい。（46歳/専業主婦・埼玉県）

【仕事】

- 仕事に復帰し、家庭だけでない自分の生活を充実させていきたい。（40歳/パートアルバイト・静岡県）
- 今までお金のためにストレスを我慢して仕事をしていたが、自分らしさ、自分の能力を生かせる仕事を探して転職活動をしたい。（26歳/フルタイム・大阪府）

【家族との時間・親孝行】

- やりたかったというと大げさですが、家族と一日一日を大切に生活していきたいと、切実に思いました。（32歳/専業主婦・東京都）
- 家族との旅行など家族時間を大切にしたいです。（37歳/専業主婦・愛知県）
- 親孝行。実家が近いのでなかなか両親に日ごろの感謝の気持ちを伝えることができていないので、親孝行をしたいです。（43歳/専業主婦・香川県）

【日常を大切にする・やりたいことを先延ばしにしない】

- 毎日の普通の生活を普通に過ごしたいです。普通が一番大切だから。（44歳/専業主婦・千葉県）
- なにということはないのですが、今やるべきことは明日に延ばさずやるというふうにしています。食べたいものを食べるもそうですし、会いたい人に会うもそうですし。（39歳/その他・埼玉県）
- おいしいものを食べたり、出かけたい場所に行くことなど、節約ムードとは反対方向かもしれませんが、実行したいです、躊躇せずに。（57歳/専業主婦・東京都）

防災意識を持っている人がほとんどだが、「最近やや薄れ気味」の人も3割強いる。

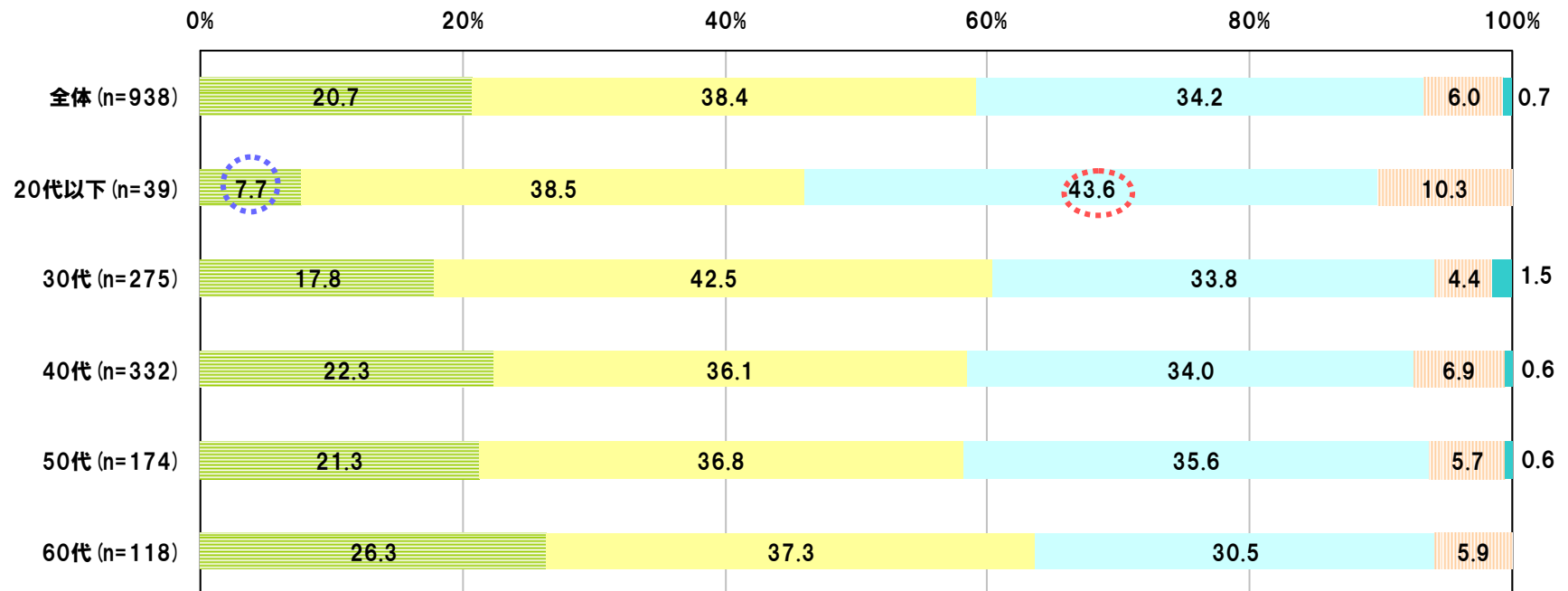
■防災意識の変化については「震災をきっかけに防災への意識を持続している」が38.4%、「震災直後は防災意識が強くなったが、最近はやや薄れ気味」が34.2%で多い。「震災前から意識している」人も約2割。

■20代以下は「震災前から意識している」人が少なく、「最近はやや薄れ気味」な人が多いので、意識を持続している人がやや少なめ。30代～60代は「震災前から意識している」「震災をきっかけに、防災への意識を持続している」あわせて意識を持続している人は6割前後いる。

全体

年代別

Q. 東日本大震災から1年近くの間、あなたの防災意識に変化はありますか？(SA)



≡ 震災前から意識している

■ 震災をきっかけに、防災への意識を持続している

■ 震災直後は防災意識が強くなったが、最近はやや薄れ気味

▨ 震災後も、あまり防災は意識していない

■ わからない

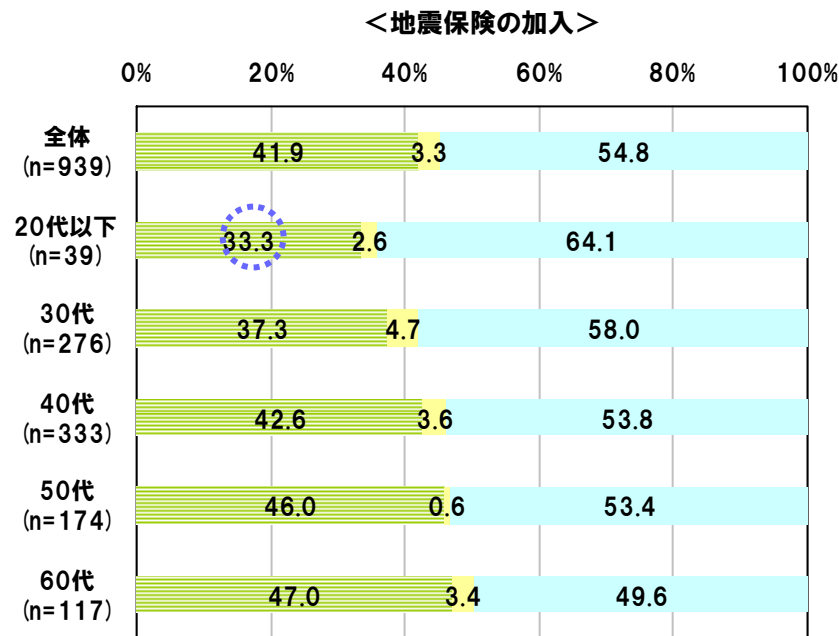
「地震保険」「住宅の耐震診断」ともに震災をきっかけに対応した人は少なめ。

■13の項目について、震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを聞いた。地震保険は41.9%、住宅の耐震診断は25.2%が「震災前から対応していた」が、「震災後に対応した」人はあまりおらず、ほぼ震災前から対応していたか、現在も対応していないかのどちらか。

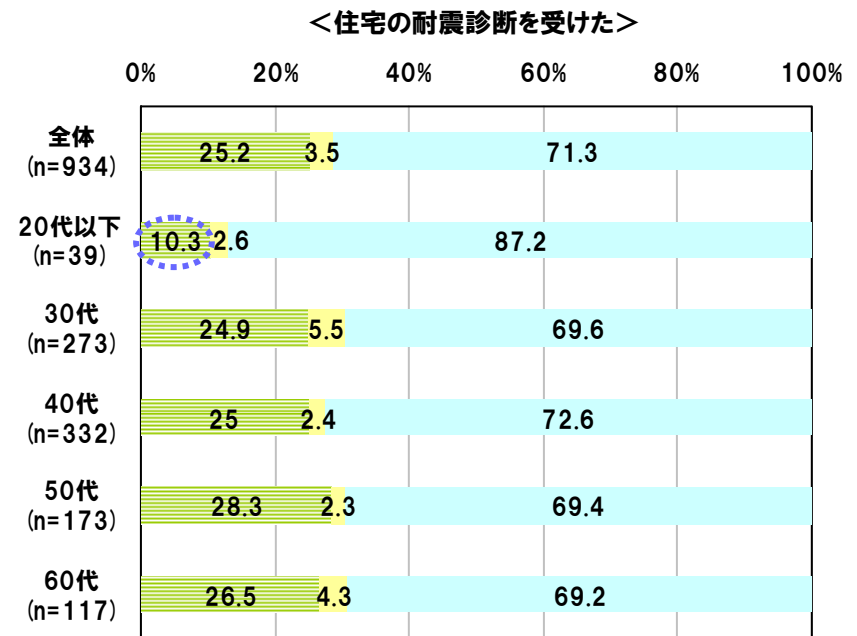
■年代別で見ると、「地震保険加入」「住宅の耐震診断」ともに年代が上がるほど「震災前から対応していた」人が多い。参考値だが、20代以下はどちらについても「震災前から対応していた」人は少ない。

全体 年代別

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない

東日本大震災をきっかけにした家庭での対応の変化②

まだまだ未対応の「住宅の耐震補強工事」「自治体・自治会などの避難訓練」。

■「住宅の耐震補強工事をした(する予定)」「自治体、自治会などの避難訓練に参加」とも、「震災前から対応していた」人は2割程度で、現在も「対応していない」人が7割強とほぼ同じ傾向。

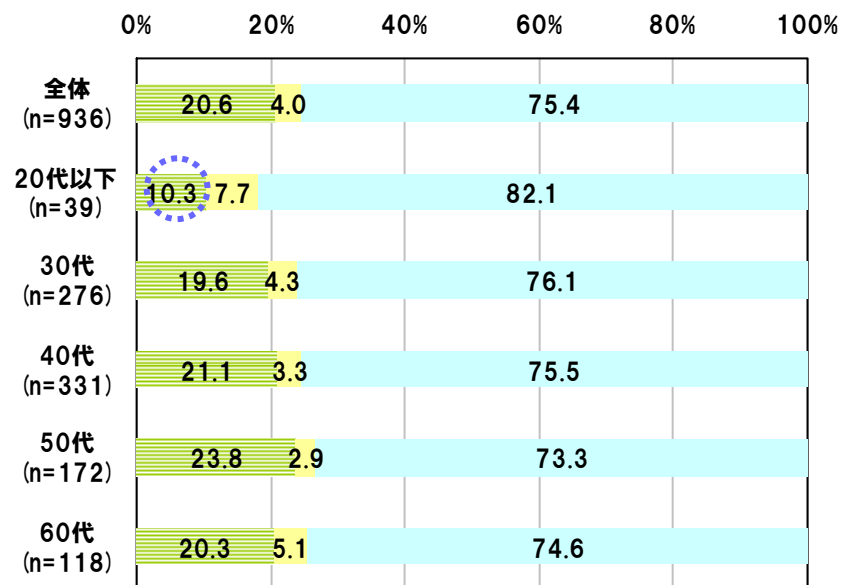
■年代別でみると、20代以下はどちらについても「震災前から対応していた」人は少ない。「自治体、自治会などの避難訓練参加」については60代の3割程度が「震災前から参加」していて、ほかの年代よりも多め。

全体

年代別

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)

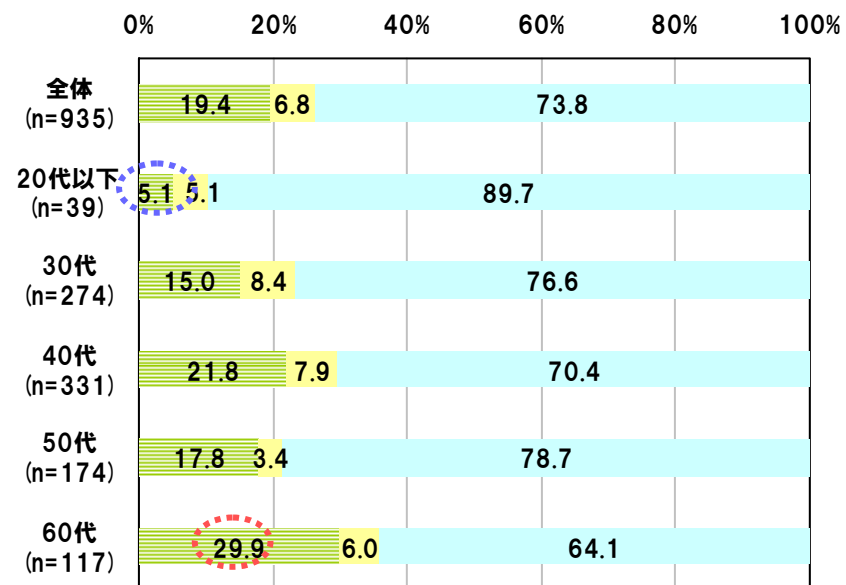
<住宅の耐震補強工事をした(する予定)>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した

■ 対応していない

<自治体、自治会などの避難訓練に参加>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した

■ 対応していない

東日本大震災をきっかけにした家庭での対応の変化③

震災前後で8割強が「避難所の場所」を確認。「防災マップの入手」も半数以上が対応済。

■「防災マップの入手・確認」は20.6%が、「避難所場所の確認」は26.4%が震災をきっかけに対応している。震災前からとあわせると「防災マップの入手・確認」は約6割が、「避難所場所の確認」は約8割が現在対応している。

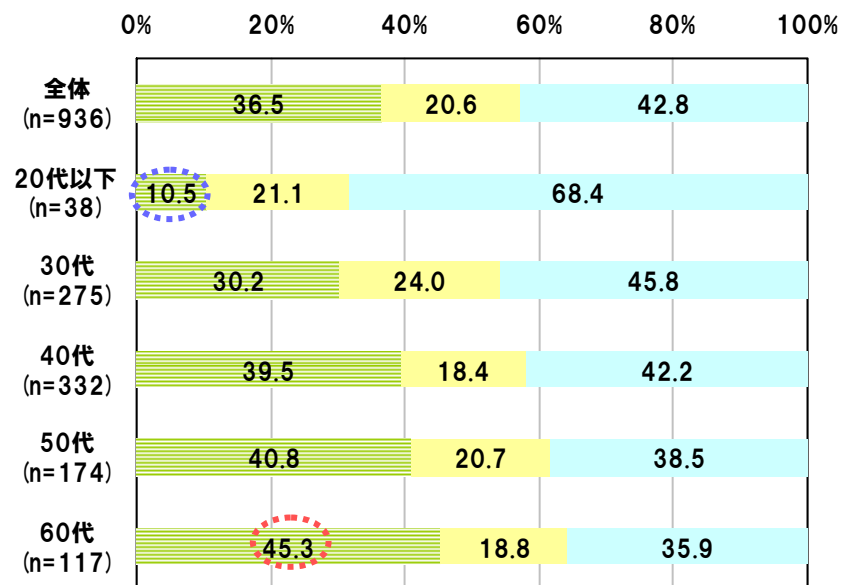
■年代別でみると「防災マップの入手・確認」は60代の割合が高く、20代以下の割合が低い。「避難所場所の確認」は40代以上は震災前から対応していた人が6割前後で多く、30代以下は震災後に対応した人が4割程度と多い。

全体

年代別

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)

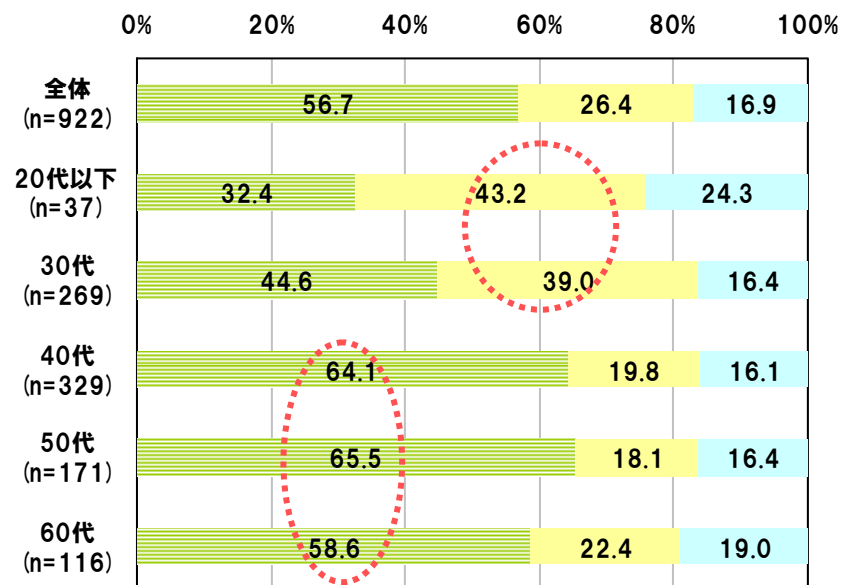
<自治体のハザード(防災)マップを入手・確認>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した

■ 対応していない

<避難所の場所を確認>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した

■ 対応していない

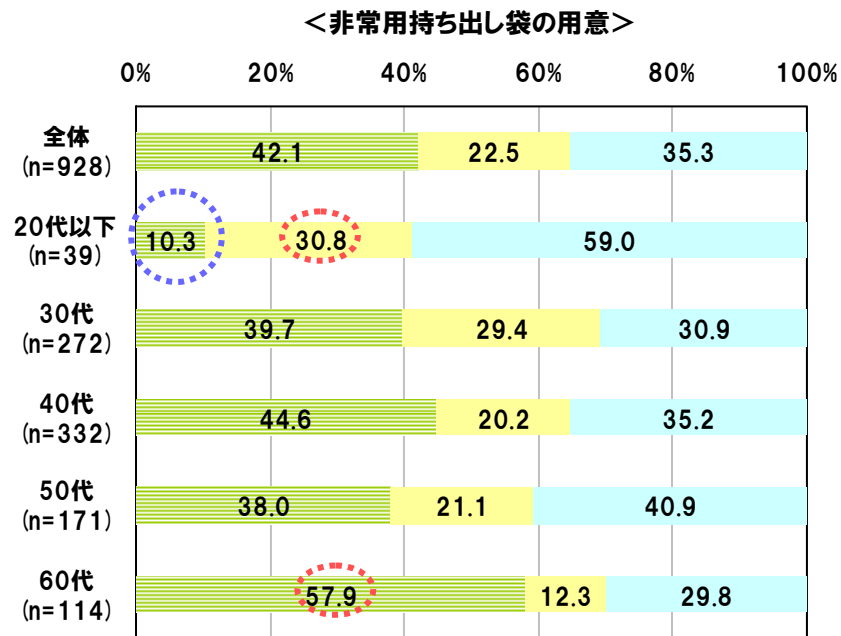
「非常用持ち出し袋の用意」「家具の転倒防止対策」は震災前後に6割が対応。

■「非常用持ち出し袋の用意」「家具の転倒防止対策」は4割超の人が震災前から、2割前後の人が震災後に対応し、あわせて6割超が現在は対応している。

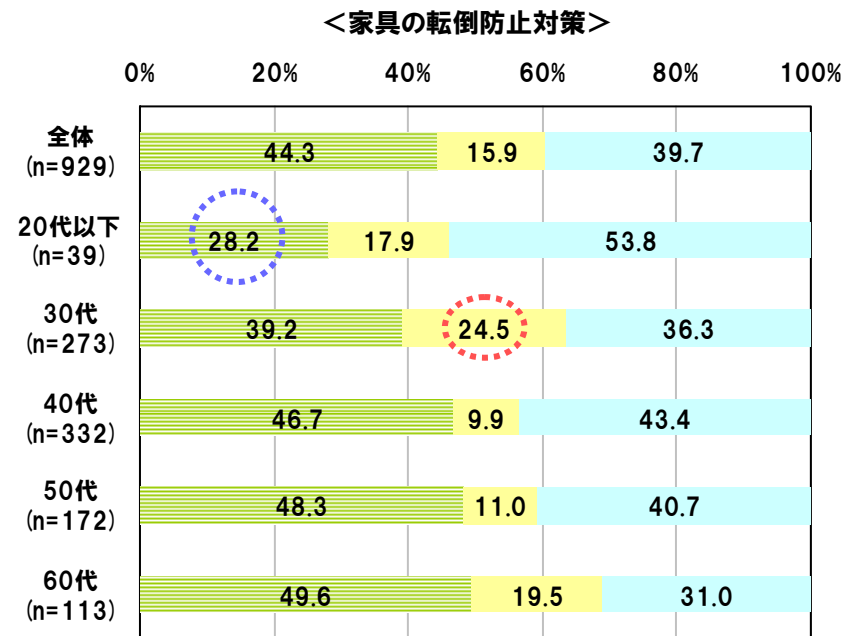
■年代別でみると、特に「非常用持ち出し袋の用意」については60代の6割弱が震災前から対応しており、高い数字。「家具の転倒防止対策」は30代の2割強が震災後に対応しており、ほかの年代よりも高い割合。ここでもやはり20代以下は震災前から対応している人は少ない。

全体 **年代別**

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない

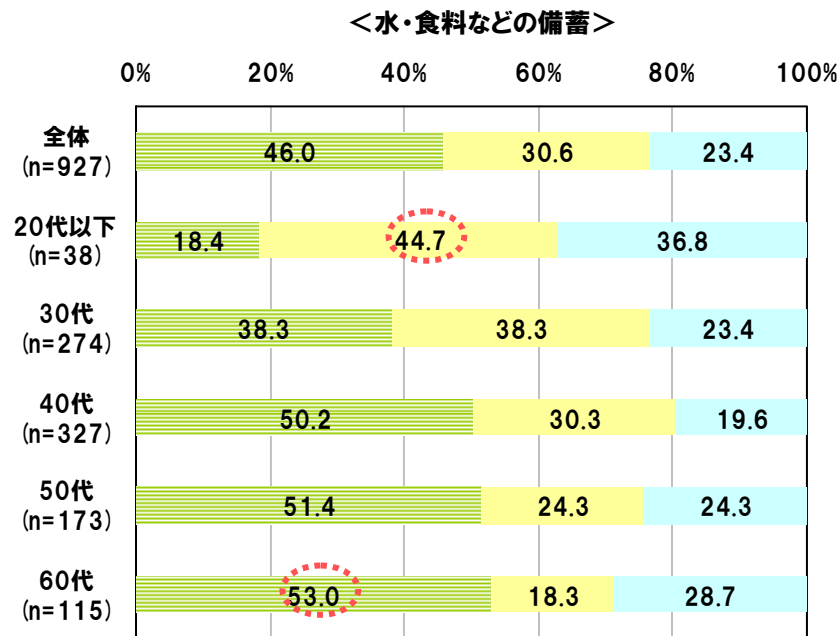
「水・食料の備蓄」「電池の備蓄など停電対策」は震災前後に8割弱が対応。

■「水・食料の備蓄」「電池の備蓄など停電対策」については、いずれも「震災前から対応」が4割強、「震災後に対応」が3割強、「対応していない」が2割強程度。

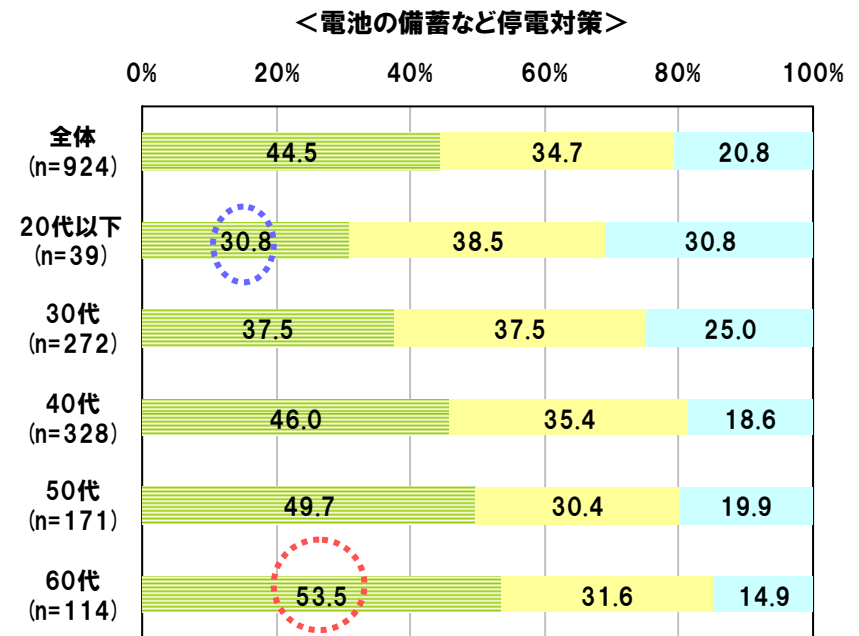
■年代別でみると、30代以下は震災後に対応した人がほかの年代に比べ多い。一方40代以上は半数が震災前から対応している。

全体 年代別

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない

東日本大震災をきっかけにした家庭での対応の変化⑥

震災後、家族の連絡手段を3割強が確認、近所づきあいは1割弱と少なめ。

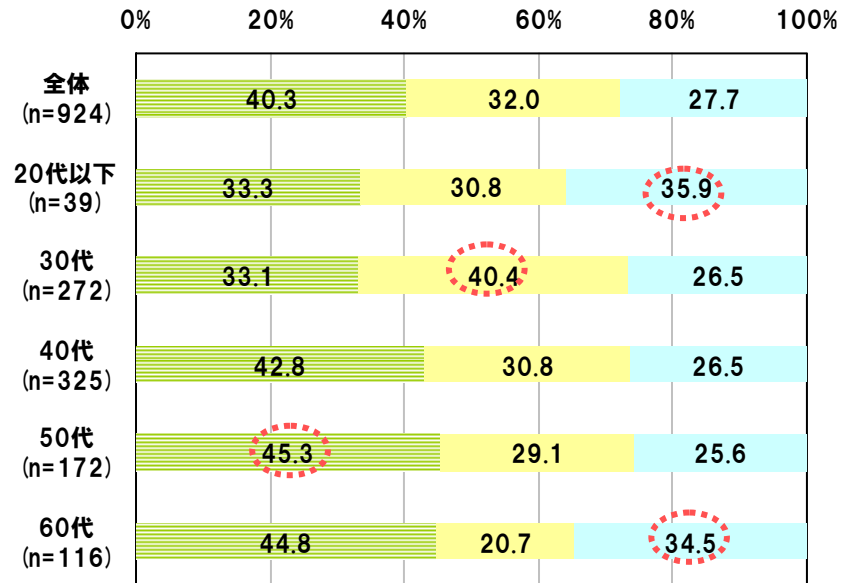
■「家族の連絡手段の確認」は4割が震災前から対応しており、年代による差も比較的少なめ。

■「積極的な近所づきあい」を震災前から対応していたのは全体では35.8%だが、60代では51.3%と高い。

全体 年代別

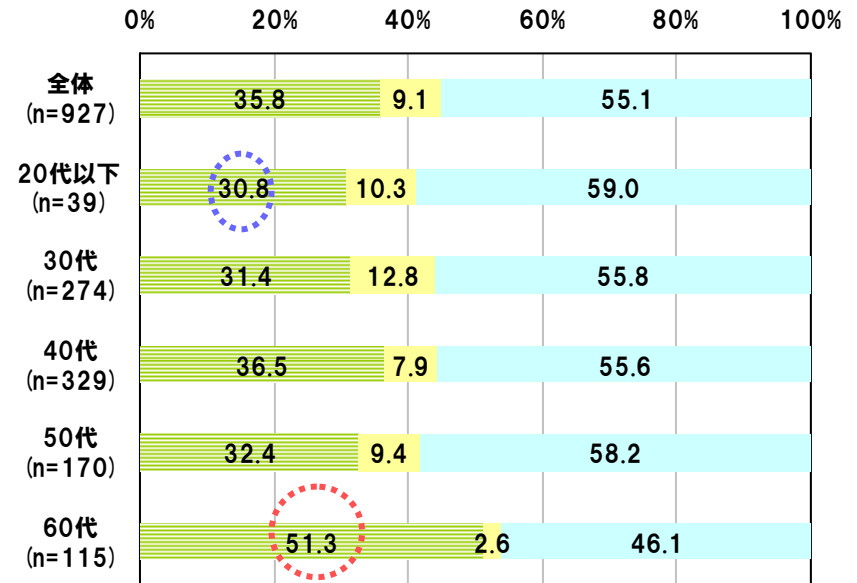
Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)

<家族の連絡手段の確認>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない

<近所付き合いを積極的にするようになった>



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した
■ 対応していない

東日本大震災をきっかけにした家庭での対応の変化⑦

「自治会活動」は上の年代ほど震災前から対応している。

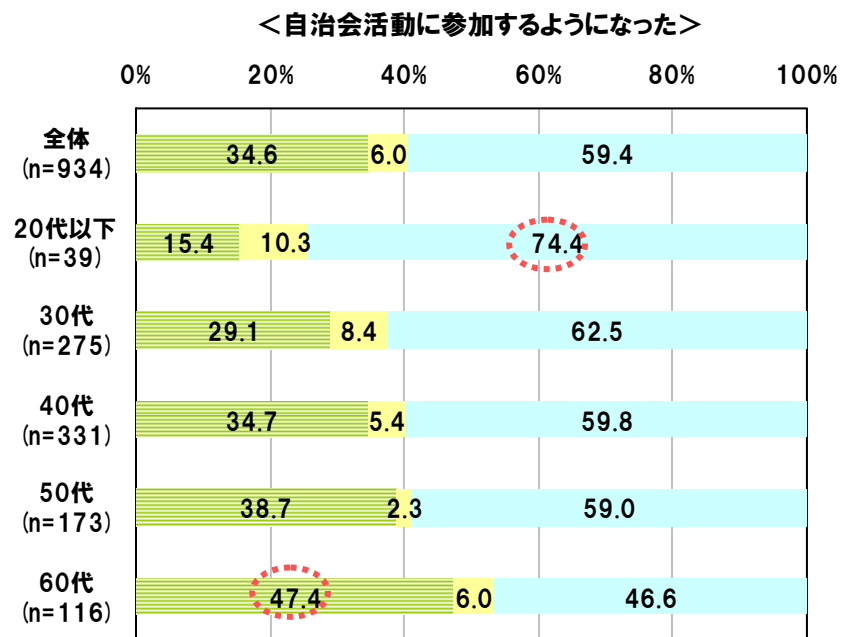
■「自治会活動への参加」は震災前後あわせて4割が対応済み。

■年代別で見ると上の年代ほど震災前から対応率が高い。20代以下は7割超が現在も参加していない。(n値が少ないので参考値)

全体

年代別

Q. 以下の項目で、あなたの家庭で東日本大震災をきっかけに対応に変化があったかどうかを教えてください。(SA)



■ 震災前から対応していた ■ 震災後に対応した

■ 対応していない

外出時の災害に備えていること／住んでいる地域で防災力の高まりを感じるか

住んでいる地域での防災力の高まりは7割が「感じない」。

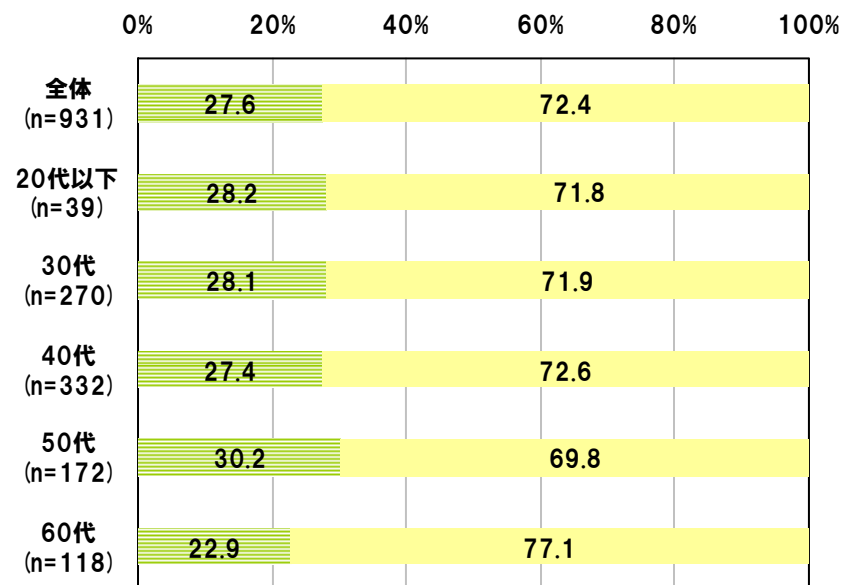
■「外出時に災害に遭遇することを想定して備えていることはあるか」では、3割弱が「ある」と回答したが、7割強は「ない」という結果。

■「住んでいる地域で防災力の高まりを感じることはあるか」でも、3割弱が「ある」と回答したが、7割強が「ない」という回答。

全体

年代別

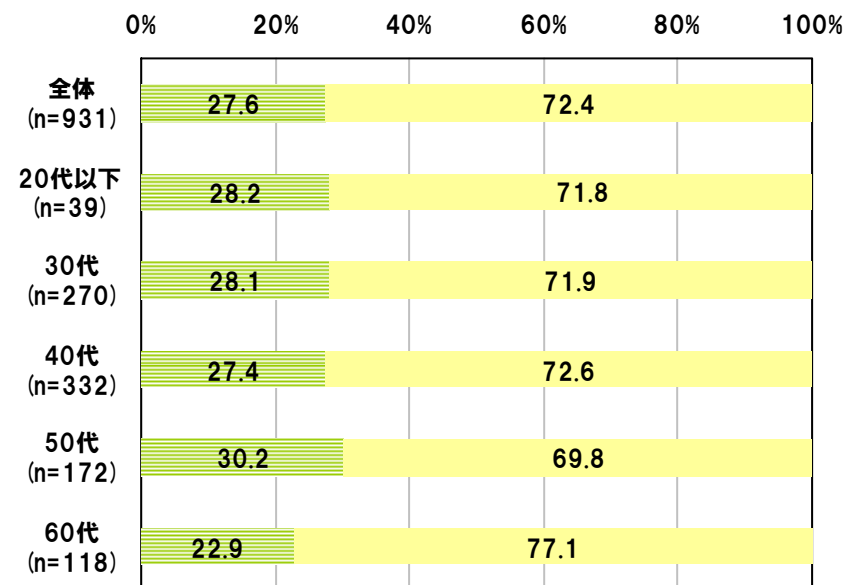
Q. 外出時に災害に遭遇することを想定して
備えていることはありますか？(SA)



ある

ない

Q. あなたが住む地域で、防災力の高まりを感
じることはありますか？(SA)



ある

ない

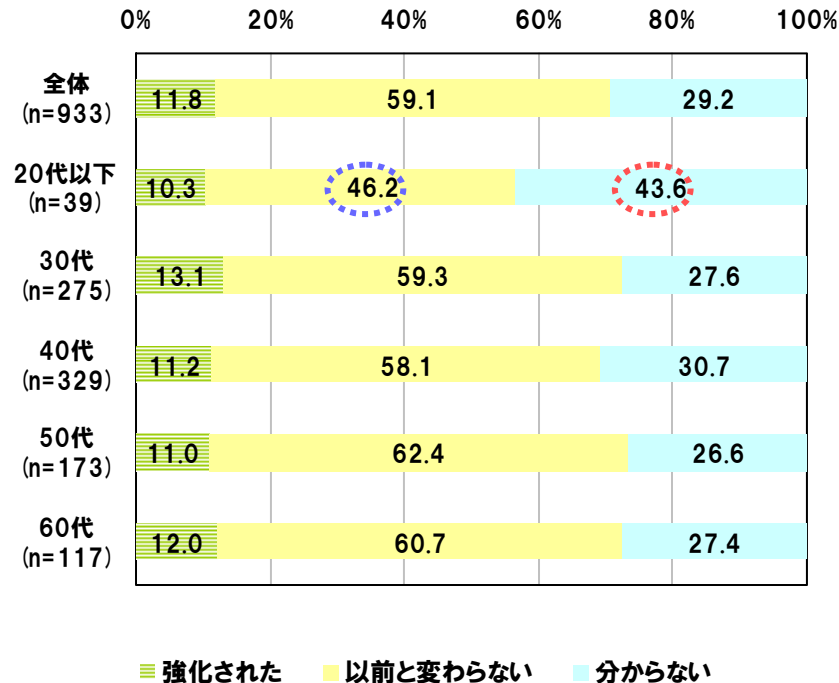
「行政からの防災情報提供が強化された」と答えたのは1割のみ。

■「住んでいる地域での行政からの防災情報提供」は1割が「強化された」と答えているが、6割弱は「以前と変わらない」と回答。

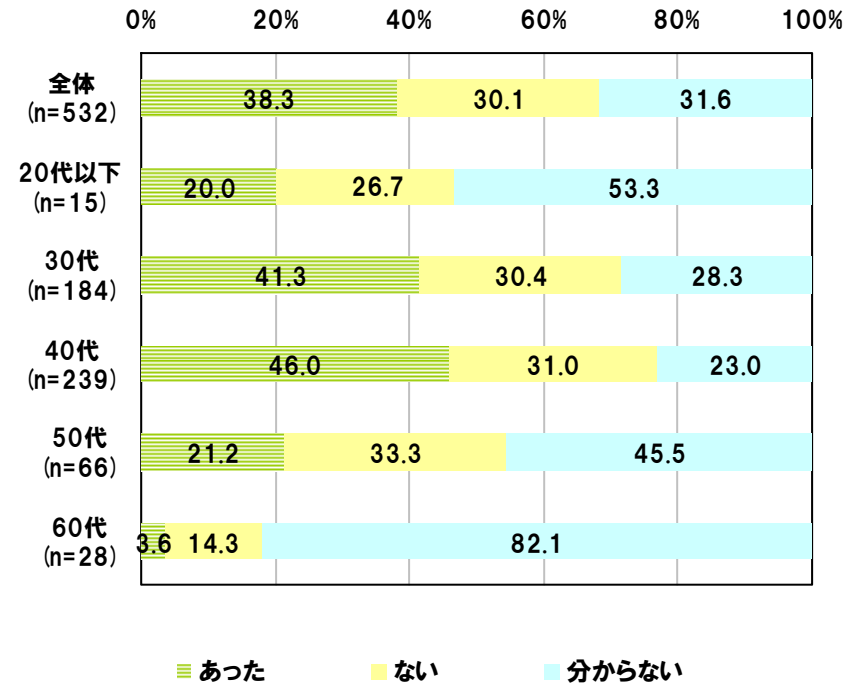
■「震災後に子供の避難体制について学校から情報提供はあったか」では、30～40代は「あった」が4割強(20代以下と50代以上は2割)。「ない」という回答も3割程度あった。

全体 年代別

Q. あなたの住む地域では、行政からの防災情報提供は強化されましたか？(SA)



Q. 幼稚園(保育園)、小・中・高校に通う子供がいる方にうかがいます。東日本大震災後、子供の避難態勢について学校から情報提供はありましたか？(SA)



災害時の情報入手に信頼できる、頼りになると思うメディア

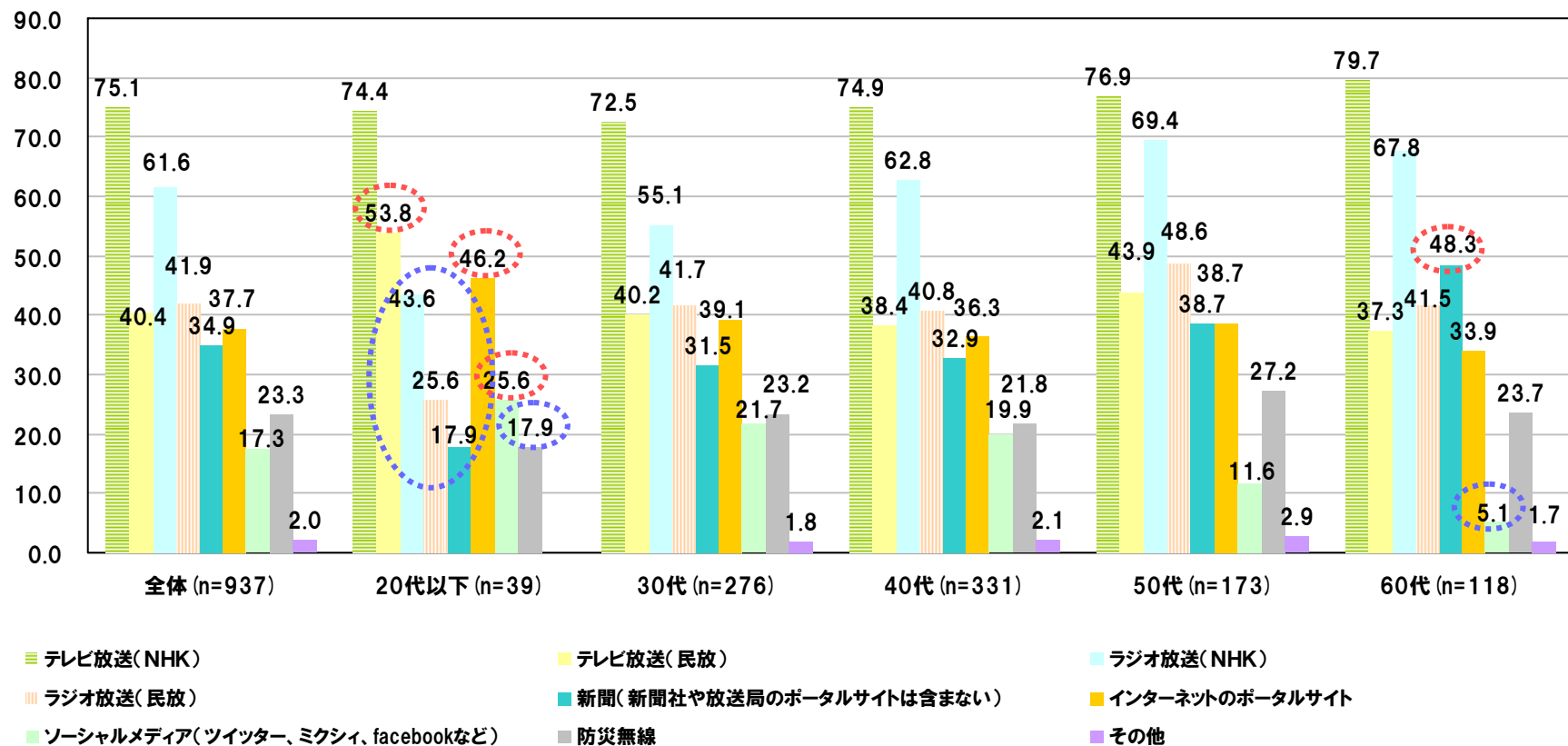
災害時に頼りになるメディアは「NHK(テレビ、ラジオ)」が圧倒的。

■今後災害が起きた場合、情報入手するのに信頼できる、頼りになると思うメディアの1位は「テレビ放送(NHK)」がダントツでトップ。次いで「ラジオ放送(NHK)」、「ラジオ放送(民放)」、「テレビ放送(民放)」と続く。

■年代別で比較すると、20代以下は「ラジオ放送(NHK、民放)」、「新聞」がほかの年代に比べ低く、「テレビ放送(民放)」、「インターネットのポータルサイト」、「ソーシャルメディア」が高かった。逆に60代は「新聞」が高く「ソーシャルメディア」が低い。

全体 年代別

Q. 今後、災害が起きた場合、情報入手するのに信頼できる、頼りになると思うメディアは何ですか？(MA)



災害時の情報入手に信頼できないと思うメディア

ソーシャルメディア、インターネットのポータルサイトなどネット系は信頼度が低い。

■逆に「災害時の情報入手に信頼できないと思うメディア」を聞いた。

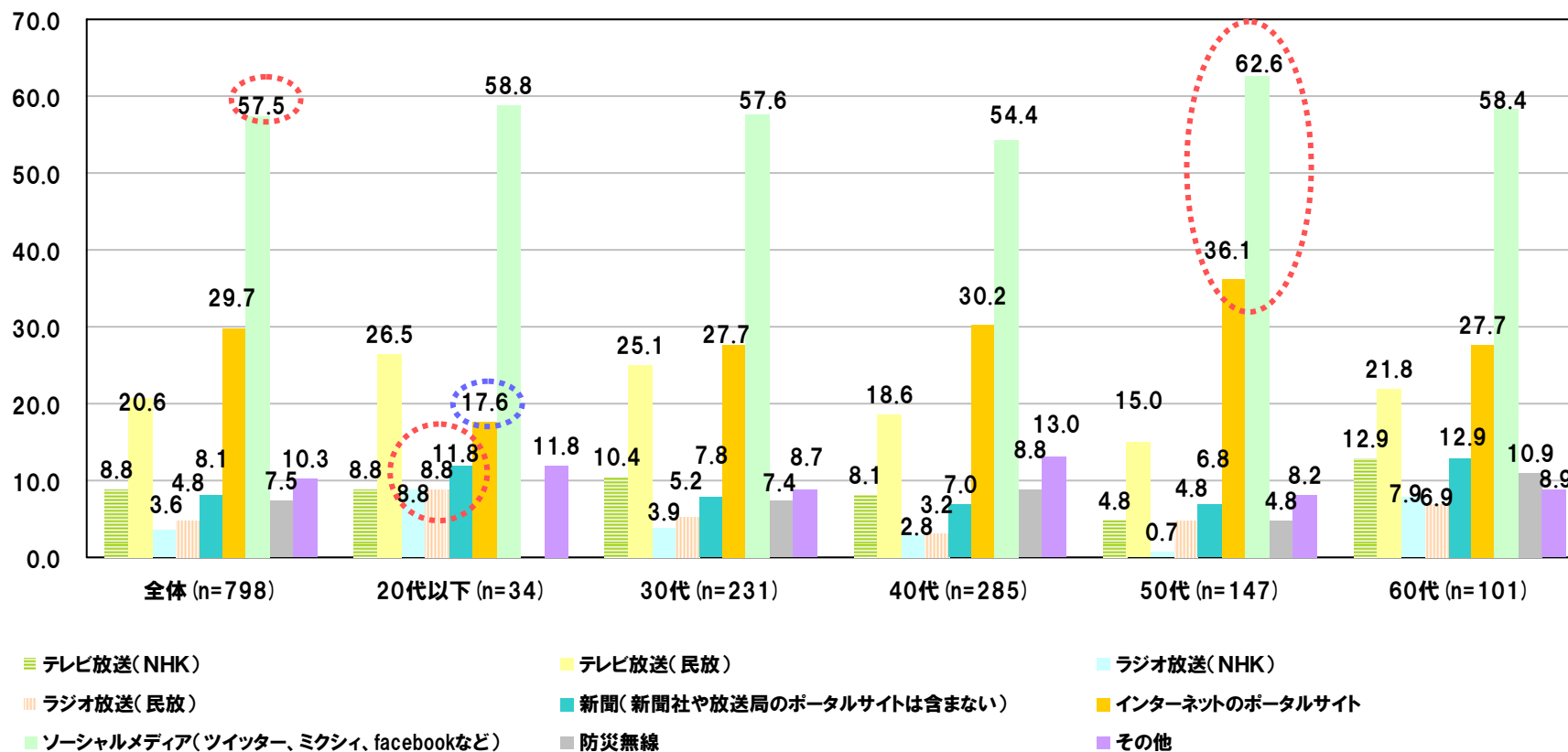
■全体では「ソーシャルメディア」がダントツでトップ。次いで「インターネットのポータルサイト」「テレビ放送(民放)」。

■年代別で比較すると、50代で特に「ソーシャルメディア」「インターネットのポータルサイト」が信頼できないという声が多い。

全体

年代別

Q. 今後、災害が起きた場合、情報を入力するのに信頼できないと思うメディアは何ですか？(MA)



今後、大規模な天災が起きることを予想した場合、不安に思うことを教えてください。（フリーアンサーから抜粋）

【家族と連絡が取れるかどうか、ちゃんと避難できるか】

- 家族がバラバラの場所にいた時に災害が起これば、ちゃんとみんな会えるかどうか心配です。（46歳/専業主婦・愛知県）
- 家族の安否を確認できるかどうか。通信網が絶たれてしまう今回のようなことは容易に想像できるから。（42歳/パートアルバイト・神奈川県）
- 家族となかなか連絡が取れないこと、正確で迅速な情報が手に入らないこと、避難待機場所の受入れがあるか。（33歳/専業主婦・東京都）
- 離れて暮す両親が無事でいられるか、歩いていける距離ではないので、すぐに無事な姿を見れないのが不安（47歳/パートアルバイト・神奈川県）
- 子供が小さいので、避難ができるか。親族とは住むところが離れているので核家族で生活できるのかが心配。（41歳/専業主婦・栃木県）
- 子供たちと離れているときの連絡手段について。携帯は持たせていたのですが震災時まるで役に立たなかったのが不安。（37歳/フルタイム・東京都）
- 家族がバラバラの時におこった場合、子どもが小さいのできちんと幼稚園や学校で対応してくれているかが不安。（33歳/専業主婦・東京都）

【避難所生活】

- 避難先での生活。テレビなどで被災者の方の生活を拝見して、自分に耐えられるか不安になる。（44歳/パートアルバイト・愛知県）
- 人口が多い地区に住んでいるので、指定避難所に十分な食料・水の備蓄があるか、人が溢れてパニックにならないか不安。（40歳/専業主婦・埼玉県）

【津波、火災、原発事故、ビル・家屋の倒壊】

- 都会での震災は、津波よりもビル倒壊、火災。（43歳/専業主婦・東京都）
- 震源地が東京湾や相模湾近郊の時、津波等の被害が不安です。職場が東京湾岸沿いのため、避難が難しいかと。（51歳/パートアルバイト・千葉県）
- 原発事故による放射性物質の拡散が心配。それがなければこれほどまで復興は長引かないし政府の対応も早かったはず。（33歳/専業主婦・千葉県）
- 家屋の倒壊や津波。それをクリアできたら復旧までの生活。避難所での不自由さやどのくらいの期間で復旧できるかなど。（38歳/専業主婦・静岡県）

【ライフラインの寸断、食料や燃料、物資の調達】

- ライフラインの寸断、食料の調達、ガソリンや灯油の供給。（42歳/フルタイム・宮城県）
- 食料、水の確保。インフラの早期復旧。（47歳/専業主婦・千葉県）
- 赤ちゃんの必需品が手に入るかどうか。（44歳/専業主婦・神奈川県）
- 子供が病気があるので、毎週検査、薬を処方されていますが、震災があったときに、検査や薬をもらうことができるか不安（37歳/フルタイム・東京都）

【その他】

- もし、家が全壊したときに、ローンの返済と次に新しいを購入する時の資金が心配です。（39歳/広島県）
- 防災無線で色々な呼びかけはあるのですが、家の中にいると聞こえづらいので不安です。聞こえないのでは役に立ちません。（54歳/専業主婦・東京都）
- 首都圏は居住者、勤労者が多いので、パニックになって収集のつかない事態になるのではないかと不安。また、子どもがいない家庭では情報や近所づきあいが少ないことが不安。賃貸住宅でも地域のコミュニティに参加できるシステムがほしい。（39歳/パートアルバイト・埼玉県）
- 我が家では室内犬を2匹飼っています。犬用の避難袋も用意し、数日分のペットフードや、ペットシート、消臭剤などの準備はしてありますが、万一長期の避難生活を余儀なくされた場合は犬たちの生活が心配です。（46歳/フルタイム・熊本県）